

(2) 販売額又は所得額の10%以上の増加(平成29年度)

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標	現状				目標				実績				スマート農業推進特 導入・定着の取組 の実施内容	地域(県又は国を含む) の価格(販売単価)		補正係 数	価格補 正後の 実績	事後評価の検証方 法(※定量的な検 証ができるこ と。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考									
						年 度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単 価) 単位	生産コスト 単位	年 度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単 価) 単位	生産コスト 単位	年 度	面積 単位		生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単 価) 単位								生産コスト 単位	事 業 実 施 前 年 度	目 標 年 度						
																															円	円	円	円	円	円
能代市 農業再生協 議会	3	久喜沢	ねぎ	野菜産地の形成の 推進 ①水稲依存の営農 体質からの脱却を めざし、水稲と園 芸作物との複合経 営の取組 ②高性能機械や育 苗施設等の導入に よる省力・低コス トによる生産の取 組 ③県内トップシ ュアを誇るネギの全 国ブランド化に向 けた高品質・安定 供給の取組を推進	販売額の 10%以上の 増加(総販 売額) (21.2%増 加)	28	141,608千円	16.8 ha	483 t	293 円/kg	-	R1	171,608千円	20.4 ha	595 t	288 円/kg	-	R1	187,641千円	20 ha	535 t	347 円/kg	-	-	-	364 円/kg	300 円/kg	1.213	225,187	278.6	天候不順により、 全体的に生育が良く ない中、品質の良い ものを作り出した結 果、売上高の増加に つながったと思われ る。	気象条件に応じた 適切な栽培管理が実 施された結果、単価 の高いA品の割合が 安定して高くなり、 販売額の増加が図ら れたため、目標の達 成に繋がった。				
秋田市 農業再生協 議会	3	雄和相 川	水稲	水稲の高品質・安 定生産 ①農地の集約化に よる効率化を図 り、適期作業によ る単収の増加 ②乾燥調整施設を 活用した高品質・ 安定生産	販売額の 10%以上の 増加 (11.8%増 加)	28	95,293千円/10a	90 ha	548 t	(H23~ H27) 10 kg/a	5中3平 均 (H24~ H28) 10 kg/a	95,293 円/10a	-	R1	106,538千円/10a	90 ha	566 t	106,538 円/10a	-	R1	124,683千円/10a	91.1 ha	521 t	124,683 円/10a	-	-	163.3 円/kg	203.1 円/kg	0.804	122,037	237.8	補正後、目標より も上回った。今後も 施設の利用率を向上 するよう指導してい く。	品質が向上したこ とから、販売単価が 安定し、目標達成に つながった。 施設利用については 、今後も指導を続 けながら、利用率向 上に努めてまいりた い。			
			大豆	収益性の高い大豆 団地形成 ①土地利用集積 し、大豆団地の形 成による生産量確 保 ②機械化一貫体系 の導入による適期 作業による単収の 増加 ③調整機械の整備 による品質向上 ④秋田県大豆指導 指針における土づく り実践による品質 向上と生産の安定 化	販売額の 10%以上の 増加 (10.0%増 加)	28	10,805千円/10a	9.4 ha	199 t	(H23~ H27) 10 kg/a	(H23~ H27) 10 kg/a	10,805 円/10a	-	R1	11,890千円/10a	20 ha	218 t	11,890 円/10a	-	R1	13,921千円/10a	32 ha	217 t	13,921 円/10a	-	-	8,333 円/kg	9,711 円/kg	0.858	11,947	105.3	大豆の販売単価は 目標を上回っており、 現状を維持できる よう指導してい く。 今後は、より一層 品質を向上させる べく指導していき たい。	作付面積は順調に 拡大している。 販売単価は現状値 維持だったが、十分 な適期管理を行った ことで、目標達成に つながったと思われ る。 今後は、より一層 品質を向上させる べく指導していき たい。			
	大豆	収益性の高い大豆 団地形成 ①土地利用集積 し、大豆団地の形 成による生産量確 保 ②播種機等の導入 による適期作業に よる単収の増加と 品質の向上 ③秋田県大豆指導 指針における土づく り実践による品質 向上と生産の安定 化	販売額の 10%以上の 増加 (10.1%増 加)	28	12,271千円/10a	45 ha	225 t	5中3平 均 (H23~ H27) 10 kg/a	5中3平 均 (H23~ H27) 10 kg/a	12,271 円/10a	-	R1	13,507千円/10a	45 ha	242 t	13,507 円/10a	-	R1	15,292千円/10a	49.8 ha	228 t	15,292 円/10a	-	-	8,613 円/kg	9,711 円/kg	0.887	13,564	104.6	大豆の品質が向上 され、目標を上回る 数値となり達成され た。 また、天候に恵ま れたこともあり、大 幅な増収へとつな がり、目標を達成す ることができた。 引き続き、高品質 の大豆を生産でき るよう指導してい く。	適期作業管理が行 われたことから、品 質の向上が図られて いる。 また、天候に恵ま れたこともあり、大 幅な増収へとつな がり、目標を達成す ることができた。 引き続き、高品質 の大豆を生産でき るよう指導してい く。					
北秋田 市農業再 生協 議会	1	下杉	施設野菜 (きゅう り、ほ うれん そう)	施設野菜産地の形 成の推進 ①灌水システムの 導入による品質向 上とハウスの増棟 による大規模経営 の取組	販売額の 10%以上の 増加(総販 売額) (684.6% 増加)	28	6,047千円	1.7 ha	45,000 kg	200 円	きゅうり 270 ほうれん そう 200	200 円	-	R1	47,447千円	3.7 ha	187,500 kg	45,000 円	-	R1	19,565千円	4.2 ha	41,261 kg	45,435 円	-	-	きゅうり 191 円/kg ほうれん そう -	きゅうり 232 円/kg ほうれん そう -	きゅうり 0.823 ほうれん そう -	8,149,873円 ほうれんそ う 9,642,181円 合計 17,792,054 円	28.4	J A販売データ 及び取引先デー タにより、当該 地区の販売額を 把握	ほうれんそうは、 連作障害の要因が高 いため、土づくりの徹 底と太陽熱消毒等の 実施を図る。 きゅうりは、病害 蔓延により、収量が 皆無となったため、 管理と防除の徹底を 図る。	ほうれんそうは、 連作障害の要因が高 いため、土づくりと 太陽熱消毒の指導を 実施済み。 きゅうりは、病害 蔓延により、収量が 皆無となったため、 管理と防除の徹底を 図る。	報告書の 電子ファ イル提出	
			露地野菜 (きゅう り、 キャベ ツ)	露地野菜産地の形 成の推進 ①きゅうりの灌水 システムの導入に よる品質向上と大 規模経営の取組 ②キャベツの高性能 機械化一貫体系 の導入による労働 効率向上で作付面 積を大幅に増加さ せる大規模経営の 取組	販売額の 10%以上の 増加(総販 売額) (253.2% 増加)	28	23,418千円	5.6 ha	312,000 kg	270 円	キャベツ 56	270 円	-	R1	82,718千円	14 ha	760,000 kg	270 円	-	R1	24,416千円	16 ha	345,830 kg	51 円	-	-	きゅうり 191 円/kg キャベツ 55	きゅうり 232 円/kg キャベツ 57	きゅうり 0.823 キャベツ 0.965	5,433,380円 キャベツ 17,020,025 円 合計 22,453,404 円	-1.6	J A販売データ 及び取引先デー タにより、当該 地区の販売額を 把握	<要因> ①一部のほ場で排水 が悪い。 ②雑草繁茂 ③干ばつによる生育 停滞 <指導内容> ①関係機関と状況確 認し、排水対策及び 作付計画の検討を実 施 ②初期除草、中耕の 徹底を指導 ③ほ場確認の徹底と 対策を指導	<技術課題> きゅうりは、病害 蔓延により、収量が 皆無となったため、 管理と防除の徹底を 図る。 キャベツは、作付 前の除草の徹底をす る。 <全体> 法人及び関係機関 で上記技術課題を共 有し、次年度から は、徹底した管理を 指導する。(毎週1 回程度)	報告書の 電子ファ イル提出	

(2) 販売額又は所得額の10%以上の増加(平成29年度) 続き

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標	現状										目標										実績										スマート農業推進特 導入・定着の取組 の実施内容	地域(県又は国を含む) の価格(販売単価)		補正係 数	価格補 正後の 実績	事後評価の検証方 法(※定量的な検 証ができるこ と。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考
						年度					年度					年度					事業実施 前年度		目標年度																						
						年 度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年 度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年 度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年 度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年 度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位															
大館市 農業再 生協議 会	1	長木	枝豆	露地野菜産地の形成の推進 ①水稲や大豆から枝豆への作付転換の取組 ②高性能機械化一貫体系の導入による労働効率向上で、作付面積を大幅に増加させる大規模経営の取組	販売額の10%以上の増加(総販売額) (301.1%増加)	28	40,715千円	20	ha	93,000	kg	437	円/kg	-	R1	163,300千円	71	ha	326,600	kg	500	円/kg	-	R1	81,836千円	73.5	ha	220.9	kg	370.4	円/kg	-	-	-	420	円/kg	368	円/kg	1.141	93,358千円	42.9	雑草抑制が不十分で初期生育が確保できなかったことや、収穫期の高温に合わせ、適期収穫が間に合わず、出荷量が伸びなかった。 今後は、適正な栽培管理に努めて、単収の向上を図るよう指導した。	<要因> ①一部のほ場で排水が悪い。 ②雑草繁茂 ③干ばつによる生育停滞 <指導内容> ①関係機関と状況確認し、排水対策及び作付計画の検討を実施 ②初期除草、中耕の徹底を指導 ③ほ場確認の徹底と対策を指導		
	2	上川沿	露地野菜(枝豆、アスパラガス、にんにく)	露地野菜産地の形成の推進 ①水稲や大豆から露地野菜(枝豆、アスパラガス、にんにく)への作付転換の取組 ②高性能機械化一貫体系の導入による労働効率向上で、作付面積を大幅に増加させる大規模経営の取組	販売額の10%以上の増加(総販売額) (25,228.9%増加)	28	760千円	0.3	ha	1,250	kg	608	円/kg	-	R1	192,500千円	枝豆 60 アスパラ 5 にんにく 10	ha	枝豆 276,000 アスパラ 13,740 にんにく 35,000	kg	枝豆 500 アスパラ 1,000 にんにく 700	円/kg	-	R1	37,557千円	75.9	ha	枝豆 78,180 アスパラ 743 にんにく 10,520	kg	枝豆 386.7 アスパラ 1,315.4 にんにく 602.9	円/kg	-	-	-	枝豆 420 アスパラ 1,090 にんにく 650	円/kg	枝豆 368 アスパラ 1,080 にんにく 521	円/kg	枝豆 1.141 アスパラ 1.009 にんにく 1.248	【合計】 43,395千円 枝豆 34,494千円 アスパラ 986千円 にんにく 7,915千円	あきた北農業協同組合及び取引先から協力を得て、取組主体の販売額を把握	えだまめ <要因> ①雑草繁茂 ②干ばつによる生育停滞 <指導内容> ①初期除草、中耕の徹底を指導 ②ほ場確認の徹底と対策を指導 アスパラガスは、適切な人員配置をすすめるように指導した。 <要因> ①にんにくは、確は対策済み(ストーンクラッシャー)で、特に人手が必要となる夏芽の期間の人員配置について指導した。 ②にんにくは、確は対策により、本年度は順調に収穫した。	22.2		